

出雲市の砂浜海岸とレッドデータブック掲載種であるシロチドリ

森 茂晃（ホシザキ野生生物研究所）

シロチドリ *Charadrius alexandrinus* は、ユーラシア大陸やアメリカ大陸などに広く分布し、日本においてもほぼ全国で見られる。しかし、近年、個体数の減少が指摘されるようになり、2012年に公表された環境省の第4次レッドリストには絶滅危惧Ⅱ類として新たに加えられ、同省が編纂したレッドデータブック（2014）に掲載されている。

本種は、島根県においても一年を通して見られ、おもに砂浜海岸や河口部の砂礫地などに生息しているが、県のレッドデータブック（2014）では準絶滅危惧に選定されている。しかし、県内の生息数の推移などの情報は少なく、特に県内全域を対象とした記録は見あたらなかったことから、2011年から本種の繁殖期にあたる5-7月に県内各所の砂浜海岸を踏査して実態調査を行ってきた。

その中で、調査地で繁殖する可能性が考えられたつがいの数は、その砂浜の長さと同程度であると予想される結果が得られており、県内の砂浜海岸の総延長に対して概ね2割程度を占めると考えられる出雲市の砂浜は、県内における本種の生息地として重要なエリアと思われた。実際、長く連続する砂浜を有する出雲市の海岸においては、それに見合う生息数が確認されている。また、同地には広い砂浜を伴う砂丘地形や幅の狭い砂浜などのほか、人工護岸や大小の河口部に接する砂浜などさまざまなタイプが見られる。また、浸食や堆積による汀線の変化が見られるところもあり、人の利用や作業などが比較的よく入る場所が含まれるなど、砂浜海岸における本種の生息状況とその推移を継続的にモニタリングすることで、本種の生息地保全に有益な情報が得られると考えられた。

本報告では、2011年に出雲市が実施している自然環境調査として行った結果のほかに、2012年から2015年まで行っている独自の調査結果をあわせて紹介し、現時点で考えられる本種の生息状況について報告する。



シロチドリ（左♀/右♂；出雲市海岸）

本発表の内、2011年の出雲市の海岸における調査結果は、出雲市「平成23年度自然環境調査報告書」によります。